

木村家の人びと

木村家の人びと

鹿賀丈史

桃井かおり

岩崎ひろみ

伊崎充則

会社の人びと

島越マリ

酒井敏也

上田謙一

小学校の人びと

江森陽弘

津村慶志

町の人びと

竹中直人

堂雪次郎

ルパン 鈴木

ベンガル

心みふところ、お元気ですか。お金サマで幸せです！

雨宮家の人びと
橋本 明
木内みどり
風見章子

高倉家の人びと
小西博之
清水ミチコ
中野 慎

老人会の人びと
加藤 嘉
多々良 純
今井和子

企画村上元一
プロデューサー 宮田秀司

プロデューサー 河井真也

プロデューサー 橋本 小枝美 天村 純子 企画協力 山田 大
原作 谷 隆彦 (小説家) 監修 橋本 一色 伸也

演出 滝田 洋二郎 監督 作品

撮影 吉賀 一男 照明 矢部 一男

録音 宮本 久雄 美術 中澤 孝三 編集 富田 功

助監督 萩原 良明 製作担当 坂本 室雄

制作 フジテレビジョン / 企画 制作 メディア / 配給 ヘルド・エース 日本ラッド映画

Herold



木村家の人びと

木村 肇(38歳)会社員。

資料編集室に席を置く。無遅刻無欠勤無早退の皆勤賞。朝の新聞配達、個人タクシー、会社での弁当売り、タイムカード代理業、学生の試験用ノートのコピーetc etcに精を出す。



木村典子(32歳)主婦。

悶え声のモーニングコール、大量の弁当作り。など、など、小銭稼ぎに奮闘の日。だが、最近隣りの高倉家のご主人とア・ヤ・シ・イ。



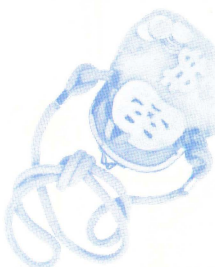
木村照美(11歳)。

両親と同様、金もうけに才能を発揮。子供会の指揮をとり、配品回収などで稼ぎまくる。子供のくせに家に食費を入れている。



木村太郎(10歳)。

家族でただひとり、グズで要領が悪く、金もうけがうまくできない。金、金、金でいいのかなあ。と密かに思い悩む今日この頃……。



“銭テク”のキウミ!!

勉強より金ノビジネスより金ノそして、愛情よりも金!! 木村家の人びとは、豪邸を建てる目的があるわけではなく、ローンに追われているのでもなく、海外旅行を楽しもうというわけでもない。ひたすら金を信じ、ひたすら金を

愛するが故に、日夜、小銭稼ぎに精を出す。彼らの凄まじいまでの金への執着、一切無駄のない生活スタイル。これはまさにハラハラドキドキの一大スベクトルだ!!

滝田映画のブラックが光る

86年「コミック雑誌なんかいらない」で世を騒がせた滝田洋二郎監督。一般映画としては、にっかつ「いとしのハーフムーン」に続く待望の3作目。「コミック雑誌なんかいらない」で観客に与えた衝撃と毒が、今度はどんな冴えを見せてくれるか、大いに期待が持てるところである。

原作は、小説新潮新人賞受賞、谷俊彦の同名小説。脚本は、「私をスキーに連れてって」などで注目の若手ライター、一色伸幸。撮影は、滝田とコンビの長い志賀葉一。照明は矢部一男など、ベテランが参加している。

演技派、個性派がズラリ

キャストは、木村肇に鹿賀丈史。妻・典子に桃井かおり。82年、野村芳太郎監督の「疑惑」以来の演技派同士の顔合せとなった。子役に岩崎ひろみ。TBS「親子ジグザグ」などお馴染みの伊藤充則。他に柄本明、木内みどり、小西博之、清水ミチコ、加藤 嘉、鳥越マリ、江森陽弘などの面々。個性豊か、豪華多彩な顔ぶれが揃って、木村家の恐しい朝が始まろうとしている……。

日本映画界に喝!

87年12月フジテレビジョン、ヘラルド・エースが個性豊かなミニ・シアターとしてスタートさせたシネスイッチ銀座。その第3弾として登場するのがこの「木村家の人びと」である。フジテレビジョンが、新しい映像作家の育成を兼ね、低予算ながら質の高い日本映画を製作、提供していこうというシリーズの輝かしいスタートを飾る作品となるわけである。

この「木村家の人びと」を皮切りに、日本映画界に一石を投じ、歴史の1ページに残る作品群が続く登場することになろう。

物 語

木村家の奇妙な朝は早い。手製の銭袋を各自さげた木村家一同が居間に整列するのが午前6時。木村肇「番号1円。」妻・典子「10円/」長女・照美「100円/」長男・太郎「1000円/」全員の声が近所まで響き渡る。「1万円/おっ!」

木村は、自転車で新聞販売店に滑り込み、典子は、電話に向かってモーニングコールの悶え声を出す。照美も太郎も手伝って大量の

弁当作りが始まる……。

やがて木村家の庭に近所の爺婆、約30人が喜々と整列を始める。木村が運んできた新聞は、この老人たちが配達するのである。老人たちにとっては、ボケ防止、運動不足解消、おまけにわずかばかりの小遣い銭にもなる、というわけ。その上婆さんたちは、きんぴらなどの“お袋の味”を作って持って来る。このおかずは、出前朝食と配達弁当に使われる。家族4人の流れ作業で弁当作りが進み、手分けして出前朝食が近所に配られる。

昼食用の弁当を積んだ木村の通勤用の車は、個人タクシーに早変わり。近所の会社員や口しを相乗りさせて送るのだ。車中には有料の髭剃りやりキッドまで用意されている。

会社での木村は、弁当を販売し、タイムカードの代理業を引き受け、人事移動予定表を作って売り回り、コピー機を利用して、学生の試験用ノートを大量に複写して稼ぐ……。社内での不倫などの情報を収集し、口止め料を取る…etc、etc……。

だが…。実は尋常でない木村家の中で太郎は密かに思い悩んでいた。“こんなことでいいんだろーか”。太郎だけは、純粋な心を失わずにいたのだ。そんな太郎のもとに叔父から聖書が届く。

3月春休みロードショー シネスイッチ銀座

CINE SWITCH GINZA

銀座4丁目交差点和光ウラ (561)0707

前売鑑賞券絶賛発売中!

一般1,200円・学生1,100円・ペア券2,200円
(当日料金/一般1,500円・学生1,300円のところ)

連日 10:30 12:30 2:30 4:30 6:30 8:30